

新潟県 公民館月報

KOMINKAN GEPPU



February 2016
No.756



『エンジョイ★サンデー』（新発田市）
日曜日の午前中、親子で楽しくものづくりをしました。

4~5 特集 全国公民館セミナー参加者レポート

CONTENTS	2	トピックス	新年度の展望	事務局長 田原 理
	3	視点 ひろば	「メディアコントロール」 「旅行」	十日町市教育長 蔵品 泰治 小千谷市社会教育委員長 藤井 和夫
	6	実践記録シリーズ	高齢者の力を活かした循環型生涯学習の推進 ～きっかけの1歩事業の取組～	三条市中央公民館
	7	サークル交流 素顔拝見	「癒しのフラで健康づくり」(村上市) / 「受け継ぐ唄と踊りは地域の宝」(妙高市) 森山 竜大さん(阿賀町) / 土田 幸枝さん(三条市)	
	8	お元気ですか ネットワーク	「元気です」	聖籠町・中村 耕次さん

新年度の展望

平成28年度の事業計画を立てる時期になりました。

各市町村では

昨年末の次年度当初予算要求に際して、平成27年度の事業評価と課題についてまとめる一方で、予算提示に基づき具体的な事業計画の立案に入っていると思います。

それぞれの担当者は企画に多忙な毎日なのではないかと思いますが、同時に、年度末までの予定事業を終わらせ新年度の準備に入る時期でもあります。この忙しさはどの市町村でも変わりません。

具体的な事業では、評価の高い事業は継続しながらもう一步前進を目指したいと思います。

新規事業は、魅力的で市民の参加が多数得られるような内容が求められますが、市町村の財政状況は依然として厳しいところが多く、事業予算も限られて運営が難しいことが予想されます。

皆さんの活動が「地域住民に信頼され、必要とされる公民館」になるよう一層の奮闘を願っています。

県公連では

さて、県公連の方は2月19日

の理事会・評議員会で新年度の事業方針と事業が決定します。その詳細は本紙3月号に掲載する予定ですが、来年度の大会計画(予定)をお知らせします。

1 県大会

期日 平成28年7月15日(金)
会場 妙高市文化ホール
(妙高市上町の番2号)
主管 妙高市



次期開催地挨拶 山本毅館長
(聖籠大会閉会式にて)



前開催地・聖籠町から妙高市へ大会旗を引き継ぎ(聖籠大会閉会式にて)

次期開催地の妙高市では大会開催に向けて準備を進めています。2月2日(火)に第1回開催準備会が同市で開催され、大会テーマ、講演講師、実践発表、アトラクション、参加料等の検討がされます。

*準備委員会委員

- | | |
|---------|-------|
| 妙高市 | 山本 毅 |
| 上越市 | 武内 朋廣 |
| 糸魚川市 | 渡辺 一彦 |
| 上越教育事務所 | 福保 雄成 |
| 県公連 | 田原 理 |

大会開催概要は理事会・評議員会で提案され、詳細な運営計画等は5月の同会議に提案されます。

大会を盛り上げるためにも多数の参加が得られるよう、各市町村で取り組みをお願いします。

2 関プロ大会

今年度は東京都開催でした。主管の東京都公連はスタッフが少ない中で大会運営で大変なご苦労をされました。多くの成果を上げた大会に敬意と感謝を申し上げます。

来年度の関プロ大会は神奈川

県開催です。本大会から全国大会がブロック大会を兼ねて実施されることになりました。

期日 平成28年8月25日(木)
26日(金)
会場 神奈川県相模原市
「相模女子大グリーンホール」

主管 神奈川県公民館連絡協議会
大会テーマ「なぜ公民館が必要とされているのか？」
基調講演講師 牧野 篤(東京大学教授)

「公民館の本質と役割」
「地域再生・未来への挑戦」
「パネルディスカッション」
「公民館が果たす
ひとつづくり・まちづくり」
分科会 8月26日(金)
相模原市内各会場

*新潟県発表予定
第9分科会・橋本公民館
「シニアが輝く公民館」
三条市中央公民館

久しぶりに新潟県が発表します。すでに関プロ大会開催パンフレットが各市町村に配布されています。正式な開催要項、参加申込書の配布は例年6月ですが、早めに参加計画を立てて多数の参加をお願いします。(田原)

事務局長 田原 理

「新潟県公民館月報」 毎月15日発行 いつでも申込み受付中

公民館月報 定価1部160円 年間1,920円(いずれも送料含む)

申込先 〒950-2004 新潟市西区平島1301番地 中野プラザ107 新潟県公民館連合会 TEL・FAX025-266-7711



「旅行」

小千谷市
社会教育委員長
藤井 和夫



退職後、知らない人の集まりに出るのが億劫。地域にとけ込むのがにがて。町内の人との交流や飲み会、談笑の機会が皆無。そんな折り、会費会員の私に老人会行事「芦ノ牧温泉一泊旅行」の参加要請があり、渋々参加。軽快な口調での挨拶や冗談を交えた役員の案内で笑いが出る雰囲気。最高齢が93歳、米寿、喜寿を迎えた人もいた。バスに乗った

ら68歳の私が一番年下で驚く。聞き役にまわったら、いろいろな話が聞けた。家柄や社会的地位、過去の肩書き、役職を捨て、地域住民60人参加の交流旅行だった。戦前戦中を生きぬいた含蓄のある苦労話、青年団の演芸大会の失敗談、定時制高校で学んだこと、認知症への不安、地域活性化の提案等新しい発見の場だった。余生を楽しむだけで

なく今まで培った生きる底力や人生の大先輩としての生き方な感銘を受けた。言葉で心をつなぎ、心が温かくなり、笑顔満開で生きる活力が出た。「話をしない日が多い中、あんなと話ができて楽しかった」と大勢の人から言われ、嬉しさ倍増。健康寿命保持の一助にもなった旅行だった。

視点



十日町市教育長
蔵品 泰治

「メディアコントロール」

文部科学省は、毎年4月に小学6年生と中学3年生を対象に全国学力・学習状況調査を実施しています。平成27年度の学習状況調査の中で「学校外での時間の使い方」について、十日町市は下表のとおりになりました。テレビやゲーム、スマートフォンなどに使う時間の合計が、小学6年生で4時間31分、中学3年生で5時間5分にもなります。これは十日町市だけが特別ということではなく、全国においても概ねこの傾向にあります。

す。当市の学校現場では、時間の使い方に大きな課題があると考へ、これらに関わる時間を制限させ、家庭学習や読書に振り向けさせようと懸命な努力をしているところ。また、スマートフォンなどの通信機器やネットワークの急速な発達、私たちの生活を便利に快適にしています。しかし、一方では子どもたちにとって仲間外しやいじめの温床になったり、犯罪に巻き込まれる危険性をほらんだりしています。実際に被害にあっている子どもたちがいることから、学校での指導ばかりでなく、家庭や地域でこれらのメディアをどうコントロールさせるのが問われています。公民

学校外での時間の使い方

	小6	中3
家庭学習・塾	78分	73分
テレビ・ビデオ・DVD	150分	129分
ゲーム	95分	103分
スマホの通話・メール・ネット	26分	73分
読書	33分	26分

館事業の中で青少年健全育成は大きな柱の一つであり、当市においても既にメディアコントロールの啓発のため講演会などを実施していますが、メディア環境の変化は大きく、更なる取り組みの強化を痛感しています。

掲示板 HOT NEWS

県社会教育団体懇話会事務局長会開催

2月3日(水)県生涯学習推進センターで県社会教育団体懇話会(社団懇)の事務局長会が開催されました。

社団懇とは、県内の社会教育関係団体が連絡・提携し社会教育の推進を図る組織で、現在10団体

が加盟しています。会長職と事務局は持ち回りで、当公民館連合会が平成27、28年度を担当しています。

今回は、本年度事業の総括と来年度事業を協議しました。総会は毎年7月に開催されます。



特集

全国公民館セミナー参加者レポート



全国から約80名参加のセミナー

「一生来なかったかもしれない場所に、私は来た」



村上市村上地区公民館 山岸 郁美

平成28年1月6日(水)～8日(金)にかけて、東京・代々木の国立オリンピック記念青少年総合センターで「第27回全国公民館セミナー」が開催された。全国各地から約80名の社会教育・生涯学習に携わる人達が集まった。

私が、社会教育・生涯学習の世界に足を踏み入れたのは、中学生の頃になる。当時、私はボランティア活動・ジュニアリーダー活動を通して、地域の方と関わることが多かった。その経験がきっかけで大学でも社会教育の勉強を深め、4月から

地区公民館で社会教育指導員として勤務している。社会人一年目でこの全国の研修会に参加できたことは、私のこれからの人生にとっても仕事をしていく上でも大きな財産となった。研修会二日目の公民館活動の事例発表では「公民館の役割」や「自分自身の課題」について改めて考える良い機会となった。

事例発表を聞いて公民館の役割は「パイプ役」であると改めて感じた。公民館事業やまちづくりは、一人ではできない。たくさんの方の力が合わさり、それが形になっていく。そして、そこに携わる人と人を繋ぐ、人と地域を繋ぐのが公民館の一つの役割であるのだと改めて感じた。そのためには、地域のことや地域に住む人達のことを良く知っておく必要がある。私にはこれがまだまだ不十分なのだと感じた。

私は勉強が得意ではなかったが、勉強は好きだった。知らないことを「知る」「わかる」ことはとても「面白い」と感じていた。ジュニアリーダーとして活動していた時も「できないこと」「できないように」なるのはとても楽しかったし、充実感や達成感を感じていた。公民館事業やまちづくりを地域の方と一緒にやっていく時に重要なのは「面白い」と感じること、これもやってみたい」という発想につながる。そのきっかけを作り、それに気づいてもらうのは、公民館職員の腕の見せ所なのだろう。

現在、私は地区公民館で青少年教育の事業を担当している。事例発表でも「地域人教育」の話などが出ていたが、私は地域で活躍できるような人材を育てる活動まで手を広げられずにいる。研修会に参加し、「地域でこれからの村上市を担っていく若者の人材を育てたい」と改めて強く感じた。そのためには、村上市のことを知り、地域に住む人と仲良くなること、第一ステップであり、そこからたくさんの方と協力しながら、若者の人材育成に力を入れていきたい。

「小さなコミュニティを面白く！」



新潟市新潟地区公民館 伊藤 義則

平成28年1月6日(水)～8日(金)の3日間、国立オリンピック記念青少年総合センターで「第27回全国公民館セミナー」が開催されました。約80名の参加者がシンポジウム、事例研究、講演を通して、これからの公民館の役割を学びました。

1日目は「コミュニティからの地域創生—公民館の新しい役割を考える—」をテーマにしたシンポジウムで、様々なゲストとファシリテーターの対談、インタビューにより進められ、いずれも貴重なものでした。最後にコーディネーターから「様々な地域活動、地域住民に対し公民館職員は、その時に応じ、ひっぱり、ささえ、よりそう」という立場をとることが大切である」というメッセージをいただきました。

2日目の事例研究では、それぞれの公民館が地域の住民や子どもたちのアイデアを取入れ、時にはみんなで悩み、喜びを共有しながら事業を企画運営するなかで、自然と人が育ち、そこに人のつながりが生まれ、また新たなものを生み出しているという発表であり、いずれも既存にとらわれない公民館事業の企画運営を学ぶことができました。

3日目は公民館講座の企画において、既存の事業も根本から既成概念にとらわれず広い視野、違う角度で考えることにより魅力的なものにすることができると。また「不完全なプランニング」にすることで、みんなが関わり、みんなと一緒に作るという活動から「みんなのもの」として定着していくという事業企画についてのヒントを学ぶことができました。

3日間のセミナーを終え、ある事例から高校生が地域をフィールドに様々な成功と失敗を経験することで「なぜ学ぶ

「のか？」を理解し「本気で学びたい」に、地域住民との関わりの中で「必要とされる自分」に気づき「自分の居場所」を見つけることで、地域の素晴らしい人材に育っているという発表がありました。これは、高校生に限るものではなく、この年代、この事業にも同じことがあてはまるのではないかと思います。今回感じたキーワードでまとめると…今一度、事業を「根本から見直し」さらに「楽しさ」を加えた「不完全なプランニング」を作成する。そして、参加者、関係者に「よりよい」ながら、これからの公民館事業を企画運営していくことで「小さなコミュニティを面白く」していきたい。全国の熱い公民館職員にもうったエネルギーを糧に頑張ります。

「実感したセミナー」

新潟市中央公民館 友坂 直宏



平成28年1月6日から8日の3日間、国立オリンピック記念青少年総合センターで「第27回全国公民館セミナー」が開催され、全国から約80名が参加しました。私自身、公民館職員としての経験がまだ浅いこともあり、全国規模のセミナーへの参加には、多少不安もありましたが、今回のテーマ「まちづくりをベースにした地方創生と公民館の存在意義」について、シンポジウムや先進事例紹介を通して学習する機会となりました。

1日目のシンポジウムは、文部科学省の社会教育への取り組みや公民館を核としたまちづくりの在り方について討論が行われました。

公民館職員がまずは地域の「一員」となり、「地域と人」「人と人」をつなぎ、さらに小学校・中学校や高等学校の学校教育と社会教育（公民館）が協働することで、地域をつくる人づくりが可能になる。まさに本市においての「学・社・民の融合」による教育の推進の目指すところであり、公民館の役割であると痛感しました。

2日目、先進的な取り組みを実践している公民館の事例発表とグループワークを行いました。

いずれの公民館においても、地域密着型の公民館であり、地域とのネットワークが確立した上での事業展開がされているが、そこに至るまでの基盤づくりについては並々ならない努力があったことが伺い知れました。

その後のグループワークにおいて、「自分たちの公民館でなにができるか」を検討・共有し、グループ内で意見交換を行いました。それぞれの自治体や地域での取り組み方の違いはあるものの、公民館として目指すべき役割について、各自が考える時間となりました。

3日目の講演では、極意を2つ学びました。完成されたプログラムを提供するのではなく「隙だらけ、穴だらけ」のプランの提供によりみんなが関わり、みんなと一緒に「くれ」みんなのものになり定着するという「不完全なプランニング」の手法。そして、「+クリエイティブ」新しい何かを創り出すために、「既存のものをぶち壊す」こと。既成概念にとらわれず、根本から考え直して、広い視野で、違う角度から、情熱と愛情を注いで考えること。

職員自身、公民館が目指すところをブレることなく、態度に表し行動し人と地域を巻き込み、寄り添いながら活動することが公民館職員として与えられた役割であると実感したセミナーとなりました。

「いろいろ思い描いた帰りの新幹線」

新発田市紫雲寺地区公民館 小林 大作



先日、全国公民館セミナーに参加してきました。大変濃厚でためになる研修でした。

帰りの新幹線の中で、いろいろな自問自答しながらまとめを試みましたが、なかなか自宅につくまでに答えは出ませんでした。そう、答えなんか無いのです。全国津々浦々、大小さまざまな公民館があります。その土地で、長年育まれた公民館があり職員がいます。必然的にその地域の住民や課題と向き合い、共に学び、時にリードし、時に寄り添い、支えとなってきました。また、地域の皆さんは公民館の応援団でもあります。

合併や施設の統廃合など、公民館も時代の波にもまれ、NPOや地域組織への委託なども進んでいる昨今ですが、公民館の使命はまだまだあると思います。

個人的なことですが、昭和58年に旧紫雲寺町の職員となり、社会教育や公民館の経験が長かったのですが、途中、用地交渉や広報などの業務も経験し、近年では平成22年から、一般行政部門を幅広く取り扱う支所で、自治会、防災、環境、地域福祉、地域要望、交通安全など、まさに、地域課題解決のために、自治会長さんや地域の皆さんと共に取り組んできました。

その成果も少しずつ出始めたころ、昨年4月から古巣の公民館に戻り、まず自問しました。

「公民館は地域の課題解決の役に立っているだろうか？」一般行政部門と公民館を両方経験すると、いろいろと見えてくるものがあります。防災学習、高齢化・長寿化対応、学校との連携、高校生など若者の活躍の場づくり、地域づくりへの対応などがあります。

今回のセミナーの事例発表でも、そのようなことが多く紹介されました。特に参考になったのは、福井市、大竹市（広島県）、飯田市（長野県）の地区公民館の事業です。具体的には月刊公民館で紹介されると思いますが、大変素晴らしい事業で参考になりました。

また、NPOから説明のあった防災の取り組み「カエルキヤラバン」は、ぜひ防災学習に取り込んでいきたいと思いました。

公民館とは？ 地域の公民館は建物や職員だけではなく、地域のフィールド、地域資源そのものが公民館であり、そこに住む人みんなが、学びの受け手であり、発信者であり講師であり、そして主役であります。そんな発想で事業を進めていきたいと思いついた全国公民館セミナーの帰り道でありました。



実践記録シリーズ

215

高齢者の力を活かした 循環型生涯学習の推進 ～きっかけの1歩事業の取組～

三条市中央公民館

【はじめに】

三条市では第2次三条市生涯学習推進計画を策定しました。この中でも特に、これまで生涯学習に取り組むことができなかった市民が、学びの1歩を踏み出して、生涯学習人口の拡大と生涯学習のすそ野を広げる仕組みの構築をこの8年間で重点的に取り組むことになりました。平成26年2月に実施した「高齢者実態調査」では、約8割の高齢者(65歳以上)が生活に充実感があると回答されている一方で、何か活動をしたいと回答された人が約5割もいるものの、実際に活動している人は3割弱であることが分かりました。

この活動したい人を支える環境があれば、長寿社会の重要な「担い手・支え手」になると考え、何か活動したい人のあと1歩を、背中を少し、後押しするのが「きっかけの1歩事業」です。

【きっかけの1歩事業】

きっかけの1歩事業には**4つの特色**があります。

- ①これまで公民館ではやったことがないような「突拍子もない」プログラムが用意されていること。
- ②参加費が無料であること。
- ③数多く実施していること。(9公民館×3事業以上)新規事業で27事業以上を実施)
- ④無料のお茶会(交流会)を開催していること。(参加者への1つのお楽しみ)

【平成27年度主なきっかけの1歩事業を紹介】

今年度を実施した「きっかけの1歩事業」を

いくつか紹介します。
・**ブラ★タムラ** 越後三条 小路百選を巡るまち歩きの達人田村さんと名物小路を巡るイベントです。



ブラ★タムラ

・畑大好き！収穫祭
枝豆の苗を植え、継続して栽培管理し、大収穫祭を開催しました。
・気軽に参加！めざせ釣り迷(名)人
地域を流れる川で釣り大会を開催しました。
・青空市場まもなく開店
・光庭で楽しむプランター菜園



お茶会

・ドッグトレーナーに聞く「犬(わん)このホンネ」
・音楽を聴きながらぐらり秋空縁台将棋

・大ホールでカラオケを歌ってみませんか。
・速読で脳活！はじめての速読体験会ほか、平成27年度は新規30事業以上を開催。

【平成27年度きっかけの1歩事業の 主な成果(上半期)】

「突拍子もない」プログラムは「新たな外出機会」に効果あり！

きっかけの1歩事業参加者数286人のうち、145人(50.7%)がこれまでほとんど公民館を利用したことがない市民であったことから、突拍子もないプログラムによって新たな外出機会の創出を図ることができました。

・91歳を含む10人がイベントスタッフを体験！
「声掛け(お誘い)」を徹底し、10人の方が様々な公民館事業のイベントスタッフを体験し、その後も、スタッフ要員としてお手伝いしてくださるようになりました。

【今後の展開】

きっかけの1歩事業のスタートを切った今年度は、「外出機会の創出」をテーマに、先ずは、出掛けて、参加していただくことに重点を置いて取組を展開してきました。

今後は、更なる事業の拡大と同時に、職員等による「声掛け(勧誘)」を行い、参加者を次のステージである様々な社会参画活動につながる仕組みの構築が求められます。

そのためには、そのスキルを持った職員が必要となり、公民館職員の力の見せどころであり、職員の力が試されるものと考えています。
(担当：阿部修造)



癒しのひと
健康ハラス

フラメイツ・ラウレア

私たちは「新日本婦人の会」というNGOを母体とする団体に属しており、日頃から様々な取り組みや活動を行っております。仲間づくりの一環として数多くの小組が結成され、我が「ラウレア」もフラ小組として毎週土曜日の午前中、楽しく練習しています。

一番の目的は、フラを通しての健康増進です。みんなで練習していると冬でも身体が温かくなります。何よりハワイアンらしい音楽に癒され、可愛い衣装を着けると心も元気になれるので不思議です。



メンバーは先生も含め10名。少人数ですが、みんな熱心で、毎年秋に開催される「音楽と踊りの集い」での発表を励みに頑張っています。ぜひ、見学や応援にいらしてください。

村上市 フラメイツ・ラウレア
代表 井上 礼子 記

受け継ぐ唄と
踊りは地域の宝

鳥坂小唄保存会

私たちは、ふるさとの素晴らしさを伝承し、ともに楽しみながら地域の伝統芸能である鳥坂小唄を広める活動を行なっています。

会の名称にある鳥坂は、私



妙高市 鳥坂小唄保存会
代表 小川喜美子 記

ちの住む地域の旧村名を表しており、先人たちが、故郷を愛し、その名をつけた唄と踊りを作り上げました。

最近では、地域内外の皆さんから喜んでいただき、活動の成果を実感することが私たちの活力になっています。

私たちは、鳥坂小唄が、地域の次代を担う子どもたちにとって、大人になった時や故郷を離れた時には、故郷を懐かしく思い、自分に元気を与えてくれる応援歌となるよう伝承されていくことを願い、今後も活動を続けていきたいと思えます。

三条市栄公民館
土田 幸枝さん



三条市栄公民館に昨年4月に新規採用された土田幸枝さんを紹介します。

公民館利用者から「土田さんの笑顔をまた見た～い。また来よう！」とよく声を掛けられる場面を見かけます。前職が小学校の特別支援児のアシスタントティーチャーをされていたせいか笑顔が絶えません。

彼女が常々言っていることが「ハンディキャップがあっても、社会の中で、たくさんの人と関わり、差別されず暖かい目で見守られながら、笑顔で生活していけるそんな社会を作っていかなければならない。今、現状は少し厳しいが少しでも改善していければ願っています。」です。こうした今までの経験が公民館での仕事に非常に役立っていると感じています。

講座や事業では、参加者がお互い緊張した場面でも「はじける笑顔」で場を和ませていただいています。驚いたことは、青空縁台将棋では、屋外の大垂れ幕を手作りで作った雰囲気演出したことです。なんとその垂れ幕は、高校で書道部の娘さんといっしょに作った作品でした。

利用者の方のあの笑顔を忘れず、いつまでもさわやかなスマイルでいていただきたいと願っています。

(三条市栄公民館 館長 坂井 寧 記)

阿賀町公民館
主任 森山 竜大さん

私より若いながら、大ベテランであり、毎週キッズダンスに通っている、可愛い娘さんをもつ一児のパパであります。「モーリ」こと森山君を紹介いたします。彼の業務内容は少年育成事業、成人式、文化協会など幅広くこなしております。また彼は、丁寧で細やかな作業を何気なく行っており、町民の皆さんからも「森山さん、森山君」いませんか？と毎日のように問い合わせがあり、対応に追われております。公民館事業は、土日の活動が多いので、あまり家族サービスが出来ませんが、いつも娘さんの事を想っているようです。現在MKK(マイホーム建設計画)中の様ですので、これからも阿賀町公民館における中心的なスタッフとして、ますますの活躍を期待しております。

(阿賀町公民館 主任 加藤 聡 記)

素顔拝見

ネットワーク

協会ではネットワークづくりを進めるために2つの情報誌を発行しています。

1 <にいがた生涯学習通信>
 ……年4回発行 会員用
 協会の会員専用です。

2 <にいがた生涯学習ネットワーク>
 ……年2回 一般用

<ラ・ラ・ネット公民館OPEN>
 県立生涯学習センターが進めていた県内公民館の情報発信・共有サイトの<ラ・ラ・ネット>



にいがた生涯学習ネットワーク



にいがた生涯学習通信

<にいがた生涯学習通信> <にいがた生涯学習ネットワーク>

新潟県生涯学習協会は社会教育団体等のネットワークづくりを主として活動しています。当公民館連合会はその活動に協力しています。(田原事務局長は協会の調査広報委員長)

県内の公民館等の社会教育施設に情報誌として提供されています。

- ト公民館<がこのたびネットにアップロードされました。検案は<ラ・ラ・ネット>で簡単に行えます。内容は
- 1 県内公民館一覧(住所、電話、施設情報等)
 - 2 各公民館ホームページへのリンク
 - 3 講座情報や活動紹介(マイページ登録団体、現在8公民館が対象)
- マイページ登録をすると、簡単に、講座情報等をWEB上に公開できます。無料です。問い合わせ…
 県立生涯学習推進センター
 TEL 025-284-6110
 [担当: 若尾]

お元気ですか

「元気でよ」

中村 耕次
 (聖籠町)



私は、町職員として、39年余り、その内公民館職員として、通算23年余り(内3回異動)勤務しました。最初の公民館勤務の時、聖籠村から聖籠町へ町制移行する際の重要な式典にビデオカメラ撮影係として関わることになりました。当日は8月の大変暑い日で、初めはうまくカメラは回っていったものの、途中で回らなくなり、上司に怒られた記憶が思い出されます。

※「お元気ですか」のコーナーは現役をリタイアした方がその後「元氣」に活動している様子を紹介するコーナーです。

定年後は、地元のボランティア団体に登録し、子ども達の安全見守りや学校行事等の支援活動に関わっています。昨年、7月に町民会議主催の講演会「メディア漬けで壊れる子どもたち」と題するお話を聞きました。子ども達の生活の中で、テレビやゲーム、インターネットという仮想空間の世界は子ども達の心と体を蝕んでいる…。スマホ育児などで親子のふれあいが不足するなどの問題があり、人との関わりの中で育まれる健全な生活を社会や家庭でも真剣に考えていく必要があると話されました。日本の子どもは「孤独を感じている割合」「自分は厄介者だと思っている割合」が世界一であるという話にも驚きました。

「地域はみんなで創りあげていくものです。税金を払えば、ひとり勝手な生活をしても良いというものではありません。これからも、研修をとおして自己を高めると共に、地域活動、地域づくりに、微力ながら尽力していきたいと思うこの頃です。」

地すべり被害を未然に防止するため取り組んでいます

協議会会員12市町では国土保全を念頭に、地すべり地域の保全と自然環境の保護及び地域振興に取り組んでいます。

そのため、地すべり防止対策事業や関連事業による農業並びに生活基盤の改善を積極的に推進しています。

新潟県農地関係地すべり防止事業推進協議会
 会長 (妙高市長) 入村 明 (会員12市町)

新潟市中央区新光町4-1 新潟県自治会館 (新潟県市長会内)
 TEL 025(284)3434 FAX 025(285)3135

事務局長の つぶやき

新しい年を迎えると、大半の人は、今年こそはと数日思うそうです。その数日というのが良いですね。
 その証拠に市販されている日記帳の大半は桜が咲く頃には、どこに置いたかわからなくなる

らしいです。これはこれで良いのではないのでしょうか。
 子どもはまだしも、大人があまり決意、覚悟、必死になると周囲に迷惑をかけるので、人に迷惑をかけるのが一番いけない。自戒。
 (田原)